

# いらっしやいませ通信

## 卒業式が近づくと...

日常の生活とは、色々なことが違ってきます。私事でいうと、卒業に向けた文章を考えることが多くなります。仕事や着る人の言葉を利用することも多く、沢山の資料に目を通すことになりま。その中で、私が印象に残っているものを紹介しま

### ♡ ① あたり前のことが、あたり前には出来ない。出来ることは強い。

特別なことが出来るならわかりませんが、大リーグのイチローは、あたり前に行けることが強さにつながると語っています。

### ♡ ② やらされることを努力と言わない。自分からするのを努力と言おう。

練習メニューをするのはあたり前ですが、それ以外に自分で決めたことをするのが努力という。前足のイチロー

### ♡ ③ 一陽来復

季節はめぐって又、春が訪れる。

### ♡ ④ 五福祥来

五つの幸せに恵まれる。

### ♡ ⑤ ピンチはチャンス

失敗は、成功の母ともいいます。我に艱難苦を与えたまえと月に祈りことは出来なくとも、新しい課題に直面することでは進化進歩すると考えれば、今の苦しい状況にたえる勇気が出て来そうです。

### ♡ ⑥ 一燈照隅

これは、隅々まであかりをとけるといふものです。私たち教員が一人ひとりのまじもにあなたがい、燈籠をそぞろたいという思いにつながります。

私自身、夏頃は、こういった言葉に気をとめることもなかったのですが、近ごろは、やたらと目に止まるのは、やはり、卒業の季節だからでしょうか。



## 岩手山

宮澤賢治

そらの散乱反射のなかに  
古ぼけて黒くえぐるものに  
ひかりの微塵系列の底に  
きたなくしらく殿むもの

右の詩からどのような印象を受けますか。

詳しいことは分からなくてもいい感じか、いやな感じしかで考えてみると、どうでしょう。

古ぼけて... 黒く... これらの言葉からは、いやな感じ、じれが伝わってきます。

岩手山は、賢治自身が何回も登った郷里の山、普段は美しい姿を見せる山です。

しかし、この詩をつくったときは、いつものように美しい姿には見えなかったのでしょうか。

賢治自身の受けとめ方、感じ方がゆれ動き、内面の様子が伝わってきます。



このようなことは、日常生活の中で、あたり前のようにおきています。おなかのすいていり、何でもおしそらに見えたりしますから。

今、対人スキルトレーニング等でも、自分の気持ちに気づくことを学んでいます。

素直な気持ち、うれしい、悲しい、くるしい、つらい等々自然な感情の自己認識をむすかくなっているようにです。

特に自身主には、自身の気持ちの様子や変化を感じることが出来る絶好の機会だと思えます。さ、と同じ風景がらが、って見える経験をするこ